



第1節 さまざまな学習機会の利用

第2節 学習塾・予備校

第3節 習い事

第4節 英語の検定や資格

ベネッセ教育総合研究所 特任研究員 太田昌志

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

1

さまざまな学習機会の利用

小・中学生が学校外の学習機会としてもっとも多く利用しているのは、「学習塾」である。小学生の「学習塾」の利用は2001年以降増加しているが、中学生の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用は1996年以降減少し、「塾や予備校の夏期講習」の利用が増えている。高校生がもっとも多く利用しているのは「学校の補習授業(夏休み)」であり、2006年まで減少していたが2015年に増加している。

本章では、小・中・高校生の学校外の学習機会の利用についてみていく。

●小学生の通塾率は2001年以降増加

図3-1-1は、小学生の学校外の学習機会の利用を1990年から2015年までの経年比較で示している。はじめに2015年の結果を見ると、「学習塾」(39.0%)がもっとも多く、ついで「市販の問題集・参考書」(35.2%)、「塾の夏期講習」(24.5%)、「通信教育」(20.7%)となっている。

経年の変化をみると、「学習塾」の利用はもっとも少ない1996年(33.0%)と比べて6.0ポイント増加している。小学生の学校外の学習機会においては学習塾がもっとも多く利用され、また利用が増加している。

●中学生の通塾率は1996年以降減少

次に中学生についてみていく(図3-1-2)。2015年の結果をみると、「学習塾や予備校(放課後や休日)」(41.3%)がもっとも多く、ついで「塾や予備校の夏期講習」

(30.0%)、「通信教育」(19.1%)となっている。

経年の変化をみると、「学習塾や予備校」「通信教育」は1996年以降減少している。一方、「塾や予備校の夏期講習」「学校の補習授業(夏休み)」「学校の補習授業(朝や放課後)」の利用は、2001年以降増加している。

●高校生の通塾率は1990年から増加が続く
次に高校生についてみていく(図3-1-3)。2015年の結果をみると、「学校の補習授業(夏休み)」(43.7%)がもっとも多く、ついで「学習塾や予備校(放課後や休日)」(27.2%)、「塾や予備校の夏期講習」(20.5%)となっている。

経年の変化をみると、「学校の補習授業(夏休み)」は2006年(38.8%)まで減少していたが、2015年(43.7%)に増加している。また、「学習塾や予備校」の利用は、「放課後や休日」「夏期講習」とともに1990年から増加を続けている。

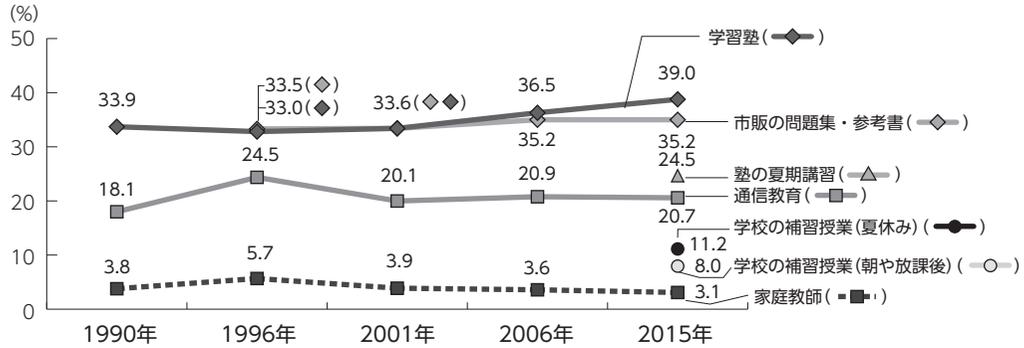
Q

あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校へ行っていますか。
(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)

Q

あなたは次のようなことをしていますか。

図3-1-1 学校外の学習機会 (小学生、経年比較)



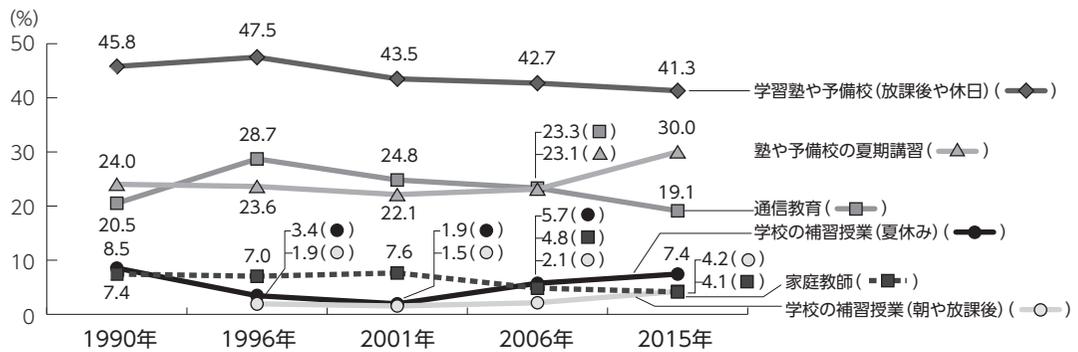
注1 調査項目は一部略記している。詳細は「調査票見本」(小学生版 図4, p.171)を参照。

注2 「学習塾」については、小学生には「あなたは今、学習塾に行っていますか(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)」としてたずねている。

注3 「学習塾」は「行っている」の比率、その他は「あてはまる」の比率。

注4 「市販の問題集・参考書」は1990年はたずねていない。

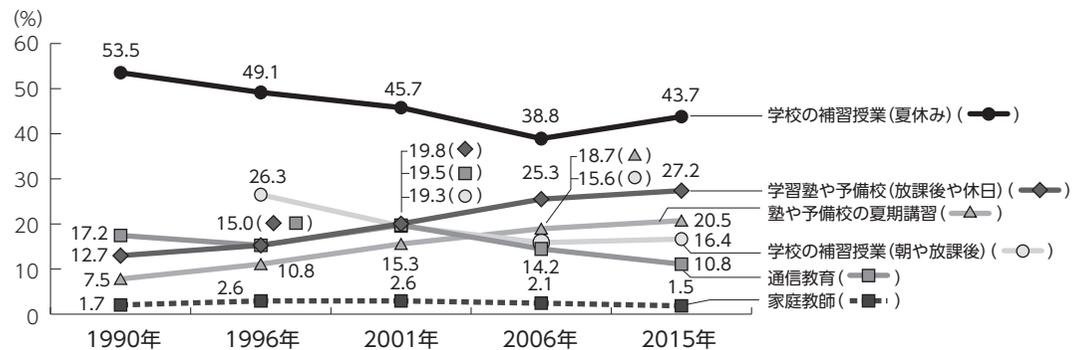
図3-1-2 学校外の学習機会 (中学生、経年比較)



注1 調査項目は一部略記している。詳細は「調査票見本」(中学生版 図6, p.176~177)を参照。

注2 「学習塾や予備校(放課後や休日)」は「行っている」の比率、その他は複数回答で選択した比率。

図3-1-3 学校外の学習機会 (高校生、経年比較)



注1 調査項目は一部略記している。詳細は「調査票見本」(高校生版 図8, p.182~183)を参照。

注2 「学習塾や予備校(放課後や休日)」は「行っている」の比率、その他は複数回答で選択した比率。

2

学習塾・予備校

1990年と比べて、小学生では成績上位の「学習塾」の利用が増加しており、高校生では学校偏差値が高いほど「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用が増加している。一方、中学生では成績上位や成績中位の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用が減少している。「学習塾」「予備校」の利用と学習時間の関係をみると、2006年から2015年にかけては、小・中・高校生とも非通塾の学習時間が通塾の学習時間と同じかそれ以上に増加している。

本節では、さまざまな学校外の学習機会の中でも放課後や休日の学習塾・予備校の利用に焦点をあてて検討する。

(1) 誰の「学習塾」「予備校」利用が変化したのか

図3-1-1でみたように、小学生の「学習塾」の利用は2001年以降増加している。また、図3-1-2でみたように、中学生の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用は1996年以降減少している。さらに、図3-1-3でみたように、高校生の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用は1990年以降増加している。それでは、このような変化は小・中・高校生の中でもどのような層において生じているものだろうか。

●小学生では成績上位の通塾率が1990年から9.0ポイント増加

図3-2-1は小学生の成績自己評価別の通塾率を経年比較で示している。成績が高いほど通塾率が高いという関係が1990年から2015年まで安定してみられる。成績上位の通塾率は、もっとも低い1990年(40.7%)と比べて2015年(49.7%)は9.0ポイント増加している。一方、成績中位と成績下位は

時期によって若干の上下はあるものの、1990年と2015年はほぼ同程度である。

●中学生では成績上位・成績中位の通塾率が1996年以降に減少

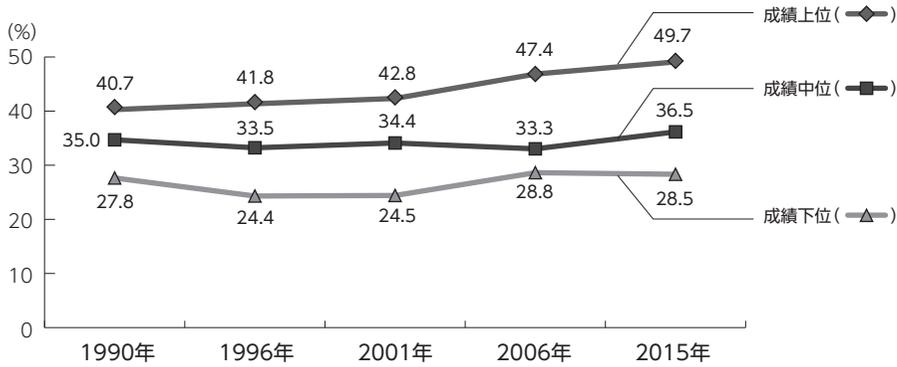
図3-2-2は中学生の成績自己評価別の通塾率を経年比較で示している。小学生同様、成績が高いほど通塾率が高いという関係が1990年から2015年まで安定してみられる。成績上位の通塾率は、もっとも高い1996年(56.6%)と比べて2015年(47.7%)は8.9ポイント減少し、成績中位ではもっとも高い1996年(49.3%)と比べて2015年(41.9%)は7.4ポイント減少している。一方、成績下位ではもっとも高い2001年(38.3%)と比べても2015年(35.2%)は3.1ポイント減少と、変化が小さい。

●高校生では学校偏差値が高いほど通塾率が増加

図3-2-3は高校生の学校偏差値帯別の通塾率を経年比較で示している。2015年においては学校偏差値が高いほど通塾率が高いが、そのような関係は1990年、1996年にはみられない。2001年以降偏差値55以上の学校がもっとも通塾率が高くなっている。

あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校へ行っていますか。
(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)

図3-2-1 「学習塾」の利用（小学生、成績の自己評価別、経年比較）

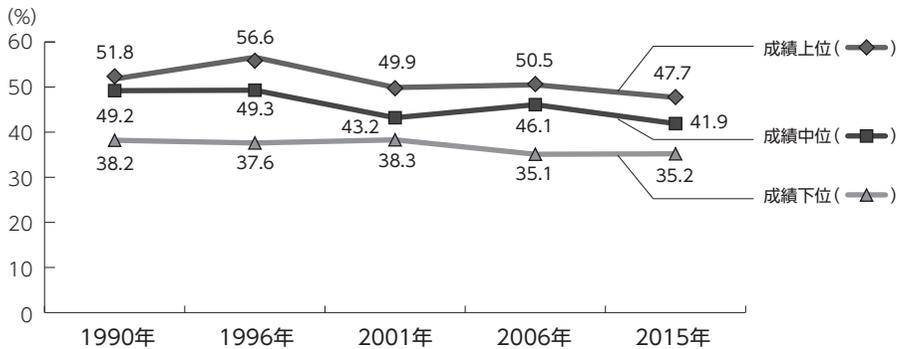


注1 「行っている」の比率。

注2 小学生には「あなたは今、学習塾に行っていますか。(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室はふくめます)」としてたずねている。

注3 成績の自己評価別の人数は図1-3-4-5 注3 (p.63) を参照。

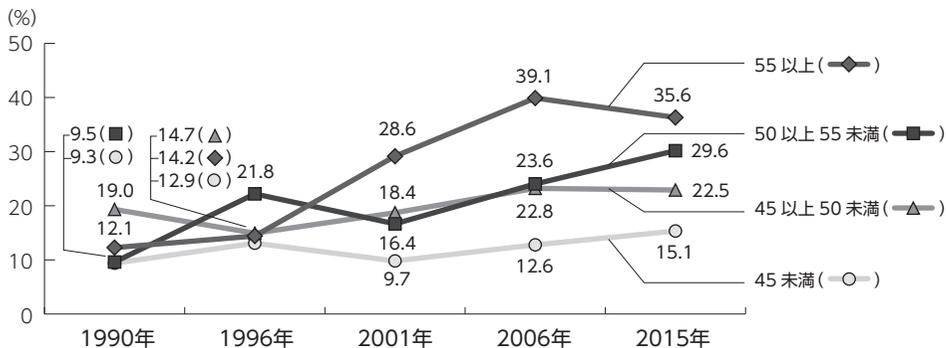
図3-2-2 「学習塾や予備校（放課後や休日）」の利用（中学生、成績の自己評価別、経年比較）



注1 「行っている」の比率。

注2 成績の自己評価別の人数は図1-3-4-5 注3 (p.63) を参照。

図3-2-3 「学習塾や予備校（放課後や休日）」の利用（高校生、学校偏差値帯別、経年比較）



注 「行っている」の比率。

(2) 通塾日数はどのように変化したか
 つづいて、通塾日数の変化をみていく。

●小学生の通塾日数の変化

図3-2-4は小学生の通塾日数を1990年から2015年の経年比較で示している。小学生の通塾率は1996年から増加している(図3-1-1)が、時期によってどのような日数の利用が増加しているかは異なっている。

週に3日以上と比較的日数の多い利用は、1990年(14.4%)と比べて1996年(10.7%)、2001年(10.5%)はわずかに減少しているが、2006年(14.3%)、2015年(14.4%)には1990年と同程度まで増加している。一方、週に1~2日の比較的日数の少ない利用は1990年(18.1%)から1996年(21.2%)に

かけて、また2006年(21.2%)から2015年(24.0%)にかけて増加している。

●中学生の通塾日数の変化

次に、図3-2-5で中学生の通塾日数をみていく。中学生の通塾率は1996年以降減少している(図3-1-2)が、この変化はとくに通塾日数の多い利用で生じている。

週に3日以上と比較的日数の多い利用は、1990年(19.6%)から1996年(17.0%)、2001年(12.2%)と減少し、その後は2006年(13.4%)、2015年(11.4%)とほとんど変化していない。一方、週に1~2日の比較的日数の少ない利用は1990年(25.4%)から1996年(29.6%)にかけて増加し、その後は2001年(30.9%)、2006年(28.1%)、2015年(29.4%)とほとんど変化がない。

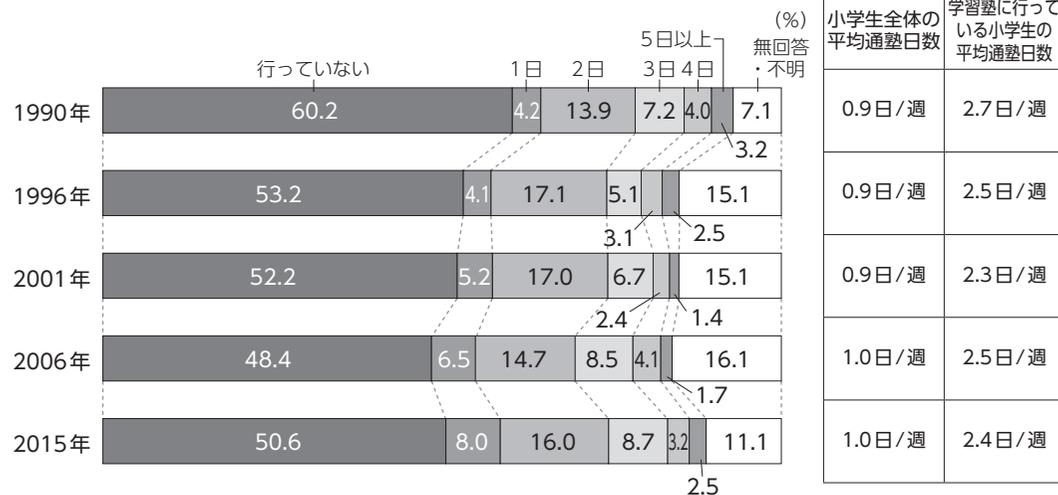
Q

あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校へ行っていますか。
 (そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)

Q

[行っている人にうかがいます] 週に何日行っていますか。

図3-2-4 通塾日数(小学生、経年比較)



注1) 「5日以上」は「5日」+「6日」+「7日(毎日)」の比率。
 注2) 小学生には「あなたは今、学習塾に行っていますか。(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室はふくめます)」「[学習塾に行っている人におききます]週に何日行っていますか」としてたずねている。
 注3) 小学生全体の平均通塾日数は「行っていない」を0日として計算している。また、学習塾に行っている小学生の平均通塾日数は「行っていない」を除外して計算している。

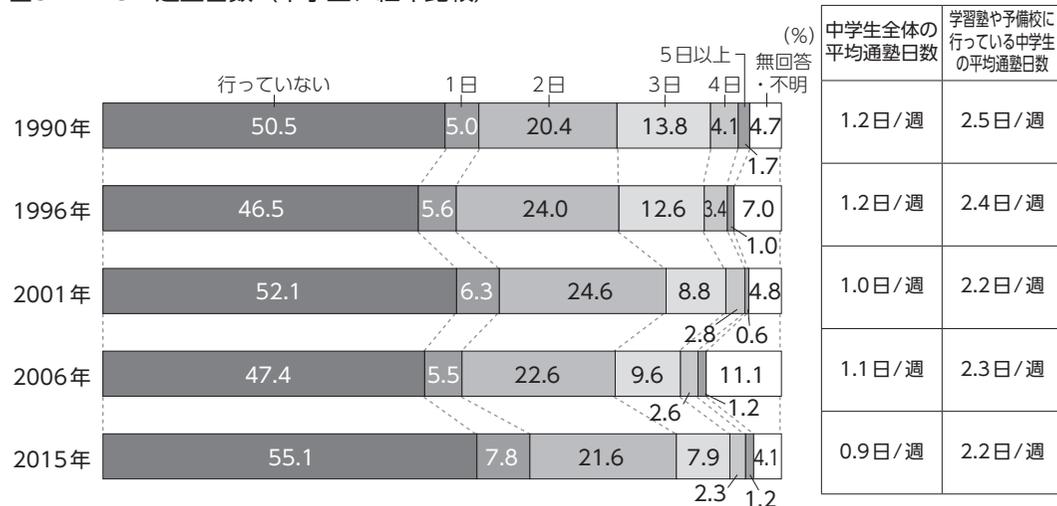
●高校生の通塾日数の変化

最後に、高校生の通塾日数をみていく（図3-2-6）。高校生は、通塾日数の多い利用と少ない利用のいずれにおいても、1990年より「学習塾や予備校（放課後や休日）」の利用が増えている。

週に3日以上と比較的日数の多い利用は、1990年（2.5%）、1996年（2.8%）におい

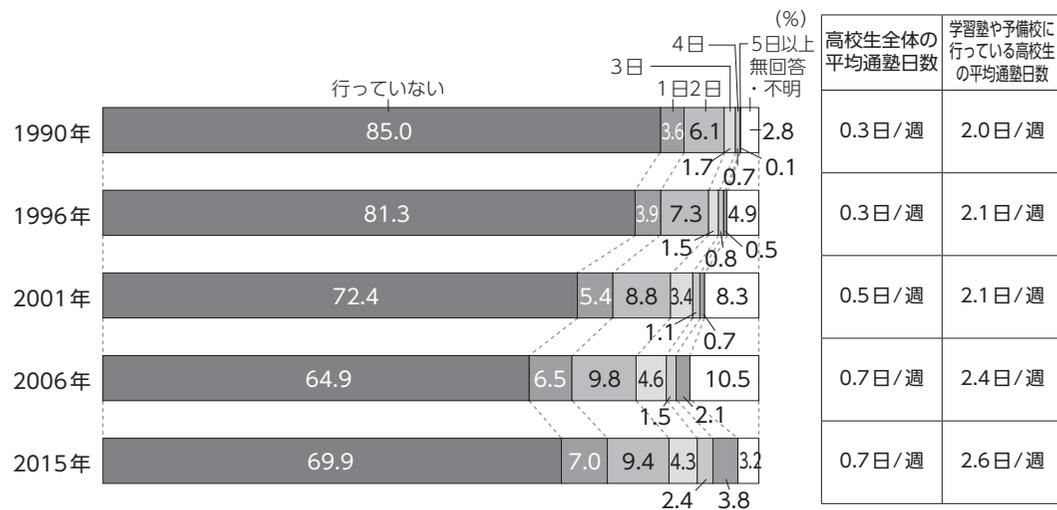
ては3%未満であるが、2001年（5.2%）、2006年（8.2%）、2015年（10.5%）と徐々に増加している。一方、週に1～2日の比較的日数の少ない利用は1990年（9.7%）、1996年（11.2%）、2001年（14.2%）、2006年（16.3%）と徐々に増加しているが、2006年（16.3%）から2015年（16.4%）はほとんど変化がない。

図3-2-5 通塾日数（中学生、経年比較）



注1) 「5日以上」は「5日」+「6日」+「7日（毎日）」の比率。
 注2) 中学生全体の平均通塾日数は「行っていない」を0日として計算している。また、学習塾や予備校に行っている中学生の平均通塾日数は「行っていない」を除外して計算している。

図3-2-6 通塾日数（高校生、経年比較）



注1) 「5日以上」は「5日」+「6日」+「7日（毎日）」の比率。
 注2) 高校生全体の平均通塾日数は「行っていない」を0日として計算している。また、学習塾や予備校に行っている高校生の平均通塾日数は「行っていない」を除外して計算している。

(3) 「学習塾」「予備校」の利用と学習時間

次に、「学習塾」「予備校」の利用が小・中・高校生の学習時間とどのような関係にあるかをみていく。

●小学生の「学習塾」の利用と学習時間

図3-2-7は小学生の平日の学校外の平均学習時間を通塾と非通塾で比較している。はじめに2015年の結果をみると、通塾と非通塾で54.8分の差がある。

つづいて経年の変化をみる。図2-2-1(p.73)でみたように、小学生の平日の学校外の学習時間は1990年から2001年まで減少し、2001年から2015年では増加している。「学習塾」の利用との関係を見ると、1990年から2001年にかけての学習時間の減少は、通塾に顕著に生じている。しかし、その後の学習時間の増加は、時期によって異なる変化をしている。2001年から2006年にかけての学習時間の増加は、とくに通塾で顕著にあらわれている。一方、2006年から2015年にかけての学習時間の増加は、とくに非通塾で顕著にあらわれている。

●中学生の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用と学習時間

図3-2-8は中学生の平日の学校外の平均学習時間を通塾と非通塾で比較している。はじめに2015年の結果をみると、通塾と非通塾で31.6分の差がある。

つづいて経年の変化をみる。図2-2-1(p.73)でみたように、中学生の平日の学校外の学習時間は1990年から2001年まで減少し、2001年から2015年では増加している。「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用との関係を見ると、1990年から2001年にかけての学習時間の減少、2001年から2015年にかけての学習時間の増加のいずれも、とくに非通塾で顕著にあらわれている。とくに、2006年から2015年にかけての学習時間の増加は、非通塾においてのみ生じている。

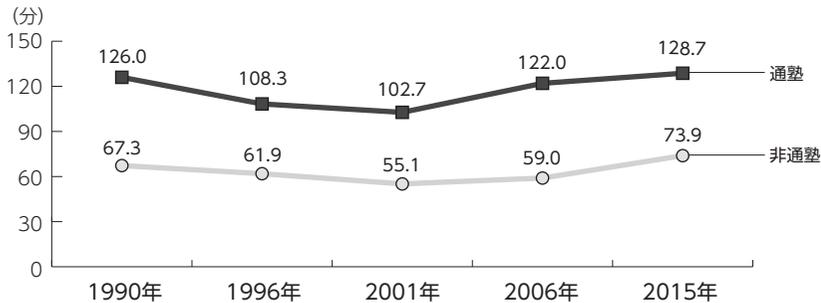
●高校生の「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用と学習時間

図3-2-9は高校生の平日の学校外の平均学習時間を通塾と非通塾で比較している。はじめに2015年の結果をみると、34.5分の差がある。

つづいて経年の変化をみる。図2-2-1(p.73)でみたように、高校生の学習時間は1990年から2006年まで減少し、2006年から2015年では増加している。「学習塾や予備校(放課後や休日)」の利用との関係を見ると、1990年から2006年にかけての学習時間の減少はとくに非通塾で顕著にあらわれている。一方、2006年から2015年にかけては、通塾、非通塾のいずれにおいても増加している。

あなたはふだん（月曜日～金曜日）、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

図3-2-7 平日の学校外の平均学習時間（小学生、通塾・非通塾別、経年比較）

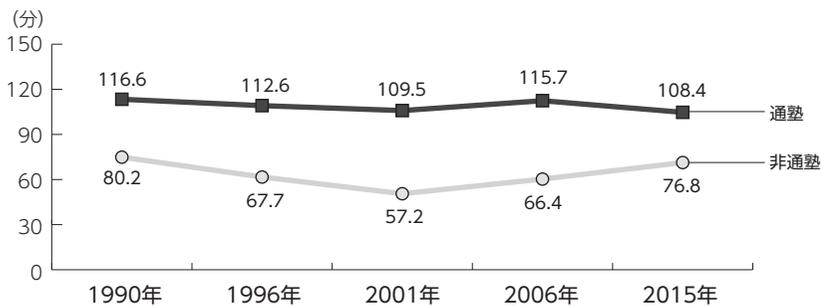


注1) 平日の学校外の平均学習時間は図2-2-1 (p.73)と同様に算出している。

注2) 「あなたは今、学習塾に行っていますか。(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室はふくめます)」に「行っている」と回答した小学生を通塾、「行っていない」と回答した小学生を非通塾としている。無回答・不明は除いている。

注3) 1990年は通塾875名、非通塾1,553名。1996年は通塾880名、非通塾1,417名。2001年は通塾807名、非通塾1,253名。2006年は通塾994名、非通塾1,319名。2015年は通塾1,014名、非通塾1,315名。

図3-2-8 平日の学校外の平均学習時間（中学生、通塾・非通塾別、経年比較）

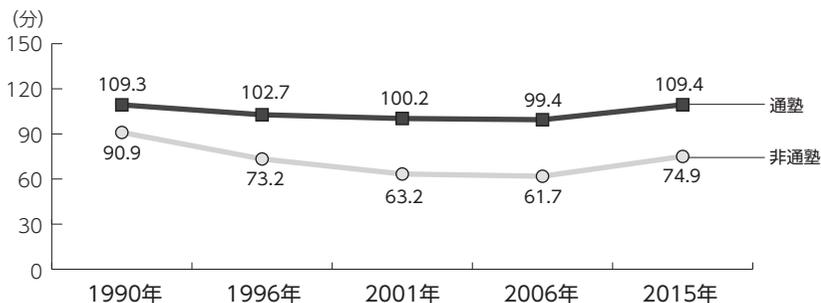


注1) 平日の学校外の平均学習時間は図2-2-1 (p.73)と同様に算出している。

注2) 「あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校に行っていますか。(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)」に「行っている」と回答した中学生を通塾、「行っていない」と回答した中学生を非通塾としている。無回答・不明は除いている。

注3) 1990年は通塾1,166名、非通塾1,285名。1996年は通塾1,309名、非通塾1,280名。2001年は通塾1,098名、非通塾1,304名。2006年は通塾1,012名、非通塾1,124名。2015年は通塾1,114名、非通塾1,488名。

図3-2-9 平日の学校外の平均学習時間（高校生、通塾・非通塾別、経年比較）



注1) 平日の学校外の平均学習時間は図2-2-1 (p.73)と同様に算出している。

注2) 「あなたは今、放課後や休日に、学習塾や予備校に行っていますか。(そろばん、習字などの塾は除きます。自習教室は含めます)」に「行っている」と回答した高校生を通塾、「行っていない」と回答した高校生を非通塾としている。無回答・不明は除いている。

注3) 1990年は通塾254名、非通塾1,704名。1996年は通塾391名、非通塾2,125名。2001年は通塾755名、非通塾2,756名。2006年は通塾1,128名、非通塾2,898名。2015年は通塾1,206名、非通塾3,094名。

3

習い事

小学生の習い事では、「スポーツ」をする小学生がもっとも多く、1996年以降増加を続けている。女子の「スポーツ」も増加し、「音楽」を抜いてもっとも多い習い事になった。しかし依然として男女の習い事の差異は大きく、「スポーツ」は男子が多く、「音楽」は女子が多いという傾向には変化がない。

●小学生の習い事は「スポーツ」が増加

表3-3-1は、小学生の習い事について1990年から2015年までの経年比較を示している。はじめに2015年の結果をみると、「スポーツ」(56.2%)がもっとも多く、半数以上の小学生が行っていると回答している。ついで「音楽」(20.9%)が多い。習い事を「何もしていない」小学生は17.5%である。

経年の変化をみると、「スポーツ」は1990年から常にもっとも多いが、1996年以降大きく増加を続けている。また、「習字」や「そろばん」は、1990年から2006年まで減少

を続けているが、2006年から2015年はほぼ横ばいであった。

●男女とも「スポーツ」がもっとも多い

続いて表3-3-2は、小学生の習い事を性別で示している。この表からは、女子の習い事の変化が読み取れる。1990年から1996年においては、女子の習い事でもっとも多いのは「音楽」、ついで「習字」「スポーツ」であった。しかし、2001年に「スポーツ」(33.0%)が「習字」(29.5%)を上回り、2015年に「スポーツ」(42.0%)が「音楽」

Q あなたは、おけいこや学校外のクラブに行っていますか。

表3-3-1 習い事 (小学生、経年比較)

(%)

	1990年	1996年	2001年	2006年	2015年	1990年から2015年の変化
1位	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 43.5	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 41.5	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 47.4	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 51.3	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 56.2	↗12.7up
2位	習字 31.4	習字 29.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 25.4	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 22.7	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 20.9	
3位	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 27.0	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 25.3	習字 22.0	習字 16.2	英語 16.9	
4位	そろばん 17.5	英語 15.1	英語 16.9	英語 15.3	習字 15.0	↘16.4down
5位	英語 13.2	そろばん 13.4	そろばん 8.9	そろばん 7.0	そろばん 8.6	
6位	絵 2.1	絵 2.1	バレエ、ダンス 3.7	バレエ、ダンス 6.1	バレエ、ダンス 8.3	
7位			絵 2.5	絵 1.6	絵 2.2	
	何もしていない 16.7	何もしていない 15.3	何もしていない 15.7	何もしていない 18.7	何もしていない 17.5	

注1) 複数回答。
 注2) 小学生のみにたずねている。
 注3) 「バレエ、ダンス」は1990年、1996年はたずねていない。
 注4) 「その他」は省略した。
 注5) 「1990年から2015年の変化」は10.0ポイント以上の変化を示す。

(32.5%)を上回って1位になった。もっとも、依然として男女の習い事の差異は大きく、た

例えば「スポーツ」は男子が多く、「音楽」は女子が多いという傾向には変化がない。

表3-3-2 習い事（小学生、性別、経年比較）

男子							(%)
	1990年	1996年	2001年	2006年	2015年	1990年から2015年の変化	
1位	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 57.2	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 56.4	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 60.7	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 65.4	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 70.3	↗13.1up	
2位	習字 22.7	習字 22.9	習字 15.3	英語 14.4	英語 13.5		
3位	そろばん 15.5	英語 12.9	英語 14.8	習字 11.5	習字 10.0	↘12.7down	
4位	英語 12.8	そろばん 12.2	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 10.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 9.7	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 9.9		
5位	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 9.6	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 10.2	そろばん 8.3	そろばん 6.2	そろばん 7.9		
6位	絵 2.0	絵 1.7	バレエ、ダンス 1.6	バレエ、ダンス 1.1	バレエ、ダンス 1.6		
7位			絵 0.7	絵 1.1	絵 1.5		
	何もしていない 19.0	何もしていない 14.8	何もしていない 17.2	何もしていない 18.8	何もしていない 16.3		

女子							(%)
	1990年	1996年	2001年	2006年	2015年	1990年から2015年の変化	
1位	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 45.3	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 40.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 41.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 36.7	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 42.0	↗12.8up	
2位	習字 40.5	習字 36.0	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 33.0	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 36.3	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど 32.5	↘12.8down	
3位	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 29.2	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど 26.6	習字 29.5	習字 21.0	英語 20.3		
4位	そろばん 19.5	英語 17.2	英語 19.3	英語 16.6	習字 20.2	↘20.3down	
5位	英語 13.6	そろばん 14.7	そろばん 9.4	バレエ、ダンス 11.3	バレエ、ダンス 15.2		
6位	絵 2.1	絵 2.6	バレエ、ダンス 7.0	そろばん 8.0	そろばん 9.3	↘10.2down	
7位			絵 3.6	絵 2.1	絵 2.9		
	何もしていない 14.3	何もしていない 15.8	何もしていない 14.1	何もしていない 18.7	何もしていない 18.6		

注1) 複数回答。
 注2) 小学生のみにたずねている。
 注3) 「バレエ、ダンス」は1990年、1996年はたずねていない。
 注4) 「その他」は省略した。
 注5) 「1990年から2015年の変化」は10.0ポイント以上の変化を示す。

4

英語の検定や資格

中学生の26.1%、高校生の58.9%が「英語の検定試験や資格試験」を受検したことがあると回答しており、受検の経験は中学生より高校生で大幅に多い。一方、「受検したことはないが、今後受検したいと思っている」という中学生は35.3%、高校生は15.2%で、中学生の方が多い。

●中学生の26.1%、高校生の58.9%が「英語の検定試験や資格試験」を受検したことがある

2015年調査では、これまでの調査でたずねていない新規追加項目として、「英語の検定試験や資格試験」の受検経験について中学生、高校生にたずねている（図3-4-1）。

中学生では、26.1%が「英語の検定試験や資格試験」を「受検したことがある」と回答している。一方、63.5%の中学生は受検したことがない（「受検したことはないが、今後受検したいと思っている」＋「受検したことも、今後受検することもない」）と回答しているが、35.3%の中学生が「受検したことはないが、今後受検したいと思っている」と回答しており、「受検したことも、今後受

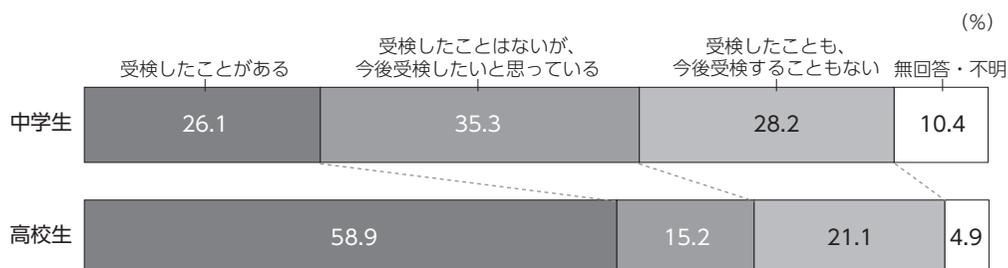
検することもない」（28.2%）より多い。

高校生では、58.9%が「英語の検定試験や資格試験」を「受検したことがある」と回答しており、中学生より大幅に多い。一方、受検したことがない高校生をみると、「受検したことはないが、今後受検したいと思っている」（15.2%）という高校生より、「受検したことも、今後受検することもない」（21.1%）の方が多い。

このような調査結果は、中学生で本調査の対象となっているのが中学2年生であることも関係があると考えられる。高校受験に向けて中学2年生の後半や中学3年生の時期に受検を予定している中学生がある程度いる可能性がある。

Q 英語の検定試験や資格試験などを受検したことはありますか。

図3-4-1 英語の検定や資格（中学生・高校生、2015年）



注) 2015年だけの質問項目。また、中学生・高校生のみにとずねている。